

～道徳の授業「その思いを受け継いで」の道徳振り返り

(道徳ノート) ～

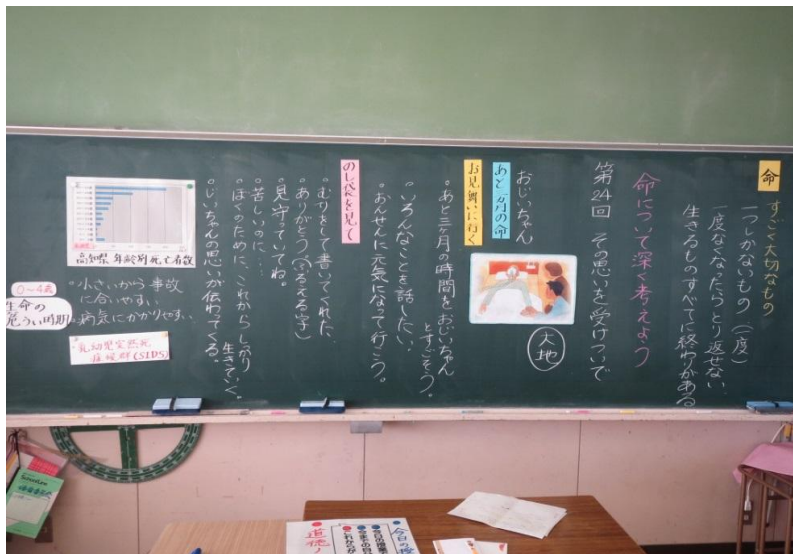
【授業の様子】



高知大学 森有希准教授が、
午前中の授業を見て、ご指導
していただきました。

(11/30)

【板書】



【道徳ノート】 (は担任の言葉です)

☆ぼくは、この話をきいて、心にずっしりきました。じいちゃんは、病気でつらいのに、のし袋に手紙を書いて入れていました。誕生日は1か月先のはずなのに、手紙をかいたのは、あと1か月生きて大地にお祝いするつもりだったのかと思うと、じいちゃんはとても優しい人なのかなと思います。

ぼくはこの道徳をしたあとに、これから一つ一つの命、生きている時間を大切にしようと思いました。今まで、先祖代々受け継がれてきたこの命。これからは、僕が継いでいく役を果たしていきたいと思います。1秒でも大事にしていくことが大切だと思いました。

自分の命を自分らしく生きていきたいね。

☆今日の学習を聞いて思ったことは、人の命は一つしかなく、いつかは終わってしまうので、残念に思います。私のひいじいちゃんも病院でしばらく入院をしていて、数日後に退院しました。それからは、ひいじいちゃんのところには、行かなくなりました。ある日、学校にいたら、電話がかかってきました。電話の内容はひいじいちゃんが亡くなったと言っていました。私は、すぐに荷物をしていそいそでお父さんの実家に行きました。そこには、静かにねむっているひいじいちゃんがいました。見た瞬間、私はなみだをポロッと流しました。いつもやさしくしてくれたひいじいちゃん、もう一度なくなったものは取り返せないと思いました。お葬式の日、私は、いままでありがとうという気持ちでなみだをいっぱいながしました。

亡くなったひいじいちゃんや家族のためにも〇〇ちゃん自身が毎日をしっかり生きていこうね。

☆ぼくは、今日の道徳で、あらためて命の重さを感じました。おじいちゃんは、3か月の命といわれていて、それをきいた『ぼく』は、すごく悲しかったと思います。ぼくも、そんな経験があって、ぼくのおじいちゃんは医者に「覚悟してください。」と言われた時があります。その時はすごくびっくりして、言葉がでませんでした。でも、きせき的に命をとりとめました。

でも、この道徳のおじいちゃんは残念ながら亡くなってしまいました。主人公の「ぼく」の気持ちがすごく分かりました。ぼくは、これから一日一日を大切にしていって後悔しないように生きていこうと思います。

自分の気持ちをしっかり書いているね。限りある命をしっかり生き抜いていこう！

☆大切な人がいなくなってしまう時、なんの前触れもなく、急にあえなくなることが一番多いと思います。あまり体験したことはないけれど、今までそこにいて、自分の前で笑っていた人がなくなるのは、よく実話で見かけます。毎日そのことを考えるのは逆に良くないし、でも考えずに「明日がある」と言ってばかりもいけないので、私は今より何気もない日常から大切にしていきたいです。

日々をどう過ごしていくか、しっかりこれからの自分を考えている所がステキです。

☆「ぼく」がおじいちゃんがあと少ししか生きられないと聞いて、不安になったりさびしくなっているところで、私も同じようなことがあったら同じ気持ちになるだろうなと思いました。グラフを見て0～4さいが命の危ない時期で、その時期を私はこえて11歳まで生きてこれているので、周りの人にも感謝したいです。

自分の命をしっかり生きぬくことが支えてくれた人たちへの恩返しとなるね。